

地域農業戦略指針の改定について

滋賀県の農業・農村の現状

- 【農業経営】
- 米価等農産物価格の低迷 ○農業従事者の高齢化、後継者不足
 - 個別経営農家の規模拡大（経営規模の2極化）
 - 集落営農組織の法人化の進展と活動停滞（参画意識の低下、役員等のなり手不足）
- 【農村集落】
- 農家数、集落の農家率の減少 ○農業への関心の薄れ

農業農村の将来予測

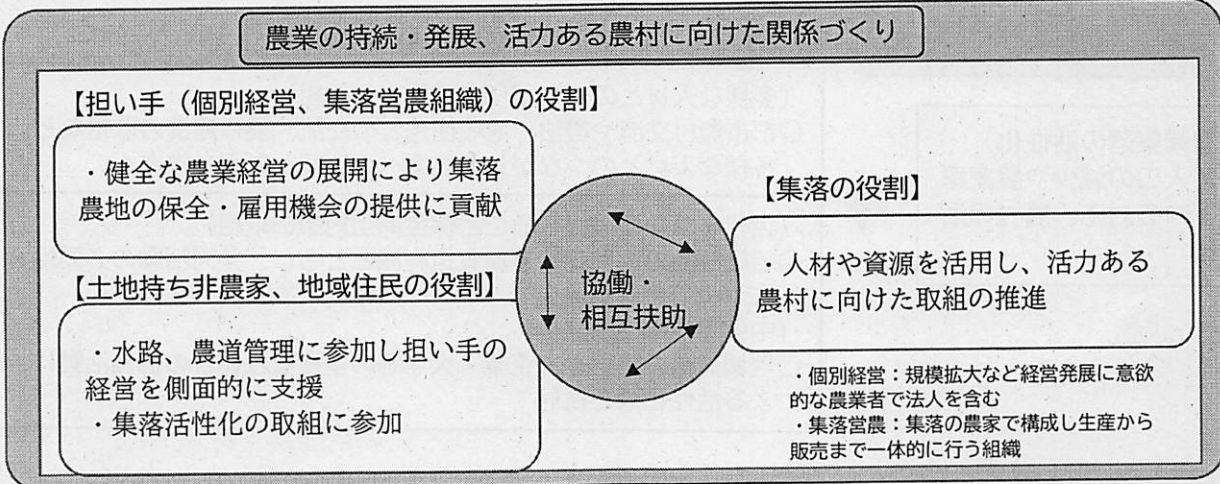
- 【将来予測】
- 水田作農家の大規模化と法人化の進展
 - 中規模以下の水稻農家の減少
 - 組合員全戸出役型の集落営農から専従・雇用型の集落営農への転換
 - 維持困難な集落営農組織の増加
 - 農村集落における農家率のさらなる低下
- 農業・農村の弱体化の懸念
- 今、対策を講じなければ、
荒廃農地の発生、拡大
共同活動の崩壊
美しい田園風景の喪失
伝統ある農村文化の衰退
を招く恐れ

コロナ禍を経た3つの気づき

- 地元で農畜水産物が生産されている安心
- 人のつながりの大切さ
- 滋賀の農山漁村が近くにあることの価値・魅力

目指す農業・農村の将来の姿

目指す姿 「担い手、小規模農家、土地持ち非農家、地域住民がともに支え合い、集落の農地がしっかりと守られ、人々がいきいきと生活している」姿



目指す姿に向けての取組

これまで、農村集落が培ってきた協働、相互扶助の精神を生かして農業の持続と集落の活性化を一体的に進める

農業の持続・発展に向けた取組

- ①マーケットインの考え方に基づく生産体制づくり
- ②集落に支えられた個別経営の展開
- ③集落営農組織の発展
- ④集落営農組織と個別経営の連携強化
- ⑤新技術の積極的な導入

活力ある農村に向けた取組

- ①多様な人材とのつながりによる地域の活性化
- ②地域ぐるみの取組（共同活動）による農地や水路・農道、農村環境の保全
- ③中山間地域の活性化
- ④女性農業者の活躍による農業経営の発展、農村の活性化

新たな課題とその対応

①農業の持続・発展に向けた取組

(経営の発展)
需要に応じた生産体制への
転換と経営力強化

(マーケットインの考え方に基づく生産体制づくり)
○適地適作や生産者の想いを大切にしつつ、顧客ニーズの把握に
努め、生産体制の見直しを推進

(個別経営体)
後継者がいない高齢の認
定農業者の経営基盤の継
承

(個別経営のリタイアに備えた集落の話合い)
○担い手が後継者不在の場合、人・農地プランのスキームを活用
し、集落で将来の農地利用を検討

(集落営農組織)
人材(役員・オペレータ)
の確保・育成

(集落営農組織における次世代(後継者)の育成)
○多様な人材の活用も含め、地域の実情に応じ次の手法を用いる
ことを検討
①集落内での人材の確保と育成
②集落営農組織間の連携
③専従者等の雇用(半農半Xのスタイルを含む)

小規模な組織の経営継続

(集落営農組織と個別経営の連携強化)
○営農継続が困難な集落営農組織の基幹作業などについて、個別
経営体への委託または移譲を検討

(中山間地域等)
農家数の減少、担い手不
在地域における農業生産
の維持

(新規就農者等との連携による人材の確保)
○十分な所得を得るに至っていない新規就農者等が、閑散期に集落
営農法人での作業に従事することを検討

(中山間地域等担い手不在地域における担い手の確保)
○旧村単位等の地縁的なつながりのある地域で、営農活動を担う
広域集落営農組織の設立を検討

②活力ある農村に向けた取組

(農業集落の活性化)
集落人口の減少や農家率
低下への対応、農村の活
性化

(多様な人材とのつながりを確保する取組)
○都市農村交流や農泊、地域住民との交流、農福連携の取組など、
多様な人材とのつながりで農業への理解と参画を推進

(世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の取組)
○組織活動の広域化や事務負担軽減とともに、共同活動の必要性
についての理解促進
(中山間地域の活性化)
○地域資源の活用や、企業・大学等の多様な主体との協働活動に
よる活性化策を検討

③新たな技術・取組の推進

地域農業の持続・発展と
活力ある農村への再構築
に資する新たな技術や取
組の推進

○スマート農業の取組による省力化と労力補完
○女性農業者の活躍による農業経営の発展と農村の活性化

○新型コロナウイルス感染症の影響下における新たな話合いの
手法の導入